

Title	地域銀行の再編効果の検証
Sub Title	
Author	池田, 東哉(Ikeda, Toya) 齋藤, 卓爾(Saito, Takuji)
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2015
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2015年度経営学 第3019号
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002015-3019

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程

学位論文（ 2015 年度）

論文題名

地域銀行の再編効果の検証

主 査	齋藤 卓爾准教授
副 査	高橋 大志教授
副 査	小幡 績准教授
副 査	

学籍番号	81430090	氏 名	池田 東哉
------	----------	-----	-------

論文要旨

所属ゼミ	齋藤卓爾研究会	学籍番号	81430090	氏名	池田 東哉
(論文題名)					
地域銀行の再編効果の検証					
(内容の要旨)					
<p>地域銀行再編のニュースが相次いでいる。その中では、地域銀行の再編は厳しい経営環境を打破するための有効な選択肢であるという論調が多い。金融庁も同様の意向であり、その動きを積極的に後押ししている。一方で、再編に対して慎重な姿勢を見せ、単独路線を強調する地域銀行が多数存在していることも事実である。現在、地域銀行の再編効果に対する見方は二分されている状況にある。そこで、本論文はこの地域銀行の再編効果を明らかにすることを目的としている。具体的には、1999年4月の阪神銀行とみどり銀行の合併事例から、2016年10月に統合予定である足利銀行と常陽銀行の事例まで計36事例を取り上げ、株式市場の反応と経営指標の変化、効率性の観点から再編効果の検証を行う。分析方法として、イベントスタディ分析、パフォーマンススタディ分析、DEA分析を採用した。各々の分析において、合併方式と持株会社方式の再編方式の違いによってその効果に差が存在するかの検証も行っている。各分析の主要な結果は以下のとおりである。</p>					
<p><u>＜イベントスタディ分析＞</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ 地域銀行の再編ニュースは、株価に対して正の超過収益をもたらし、企業価値を向上させる。したがって、株式市場は再編効果をプラスに捉えている。■ 株式市場が期待する再編効果は、主に健全性の回復にあったと考えられる。					
<p><u>＜パフォーマンススタディ分析＞</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ 再編以降、預貸金利鞘は低下している。■ コア OHR、業務純益 ROA は再編直後から改善効果が見られる。しかし、その効果は時間の経過とともに薄れ、とりわけ業務純益 ROA は再編前年を下回る結果が観察された。■ 地域銀行の再編は、健全性を明らかに回復させた。■ 従業員あたり、および営業店舗あたりの取扱預金量は増加していた。					
<p><u>＜DEA 分析＞</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ DEA 分析の結果は効率性が改善するケースが多く見られる。					
<p><u>＜再編方法の違いによる効果の差＞</u></p> <ul style="list-style-type: none">■ 多くの場合において統計的な有意差は支持されない。					
<p>これらの結果を整理し、これまでの地域銀行の再編は健全性に関する効果が中心であり、収益性や効率性の改善がなされたとはいえないと結論づけた。その原因として、従業員や店舗単位での効率性が改善していることに鑑み、様々な再編コストの存在が示唆された。これまでの地域銀行の再編を振り返った場合においては、再編が今後の厳しい経営環境に対する有効な選択肢であるという判断は適切ではないといえるだろう。</p>					